



福井市越廼小学校

越廼っ子だより

10月・第10号

2022年9月30日(金) 発行



目指す児童像 ・やさしく ・かしこく ・たくましく

TEL:89-2043 FAX:89-2184

HP:http://www.fukui-city.ed.jp/koshino-e

↑本校HPのQRコード

☆ 若狭・敦賀方面での修学旅行無事終了 1泊2日で最高の思い出づくり

9月21日・22日(水・木)の1泊2日で小学校最大の行事で、最高の思い出づくりの場として高学年の修学旅行が行われました。新型コロナウイルス感染症感染拡大により、6月には行き先を県内の嶺南地方に変更し、準備を進めてきました。直前には台風14号接近による天候悪化に気をもみながらも当日は台風一過、やや気温は低かったものの青空が広がる中で若狭の歴史と文化、伝統産業などに触れることができた有意義な2日間となりました。

1日目は、三方五湖を眺めるレインボーライン山頂公園で昼食を取りながら日本海沿いに敦賀半島から丹後半島まで雄大なパノラマを眺めました。その後、小浜市内では伝統的工芸品である若狭塗り箸の製作体験をし、手作りの箸をおみやげにしました。そして、高浜エルどらんどでは空中アスレチックなどのアトラクション体験を行い、充実した活動を終えることができました。

2日目は、国宝明通寺見学で海のある奈良と呼ばれる小浜の歴史を堪能し、三方縄文博物館では火起こし体験を通じて生活を支える技術の発展に思いを馳せました。最後に敦賀では、気比神宮参拝後、赤レンガ倉庫や人道の館ムゼウム見学を通して日本海の玄関口となった敦賀の役割や平和について学習しました。

☆ 台風一過、秋空の下、若狭の海・山・町でさまざまな研修と体験活動



レインボーライン山頂広場で思い出の1枚



伝統工芸は職人技 若狭塗り箸



高浜エルどらんどでの空中アスレチック



海のある奈良 小浜明通寺の見学
子どもたちの感想から



縄文人になり切って火起こし体験



敦賀赤レンガ倉庫にて敦賀歴史学が

- ・高浜のエルどらんどが一番楽しかったです。理由の一つ目は、みんなで楽しく体験できたからです。二つ目は高いけれどいろいろなステージがあって楽しかったからです。そして、三つ目は先生達と鬼ごっこできて楽しかったからです。
- ・若狭縄文博物館での火起こし体験が楽しかったです。みんなで協力してできたのがうれしかったです。火が3回もついたけれど、最初の1回目についたときは、とてもうれしかったです。昔の人はすごいと思いました。
- ・小浜での若狭塗りばし作りの体験で自分だけのはしを作りました。難しかったけれど、上手にできました。

☆外部講師を招いての体験・交流学习 新型コロナ対策を講じて積極的に実施

本校では、小規模校・少人数指導の強みを生かし、より専門的な知識・技能を有した人材を外部講師として招いての体験学習を推進しています。子ども達にその道に秀でた方の知識を伝え、直接その特技を目にすることで、自分の技能を高めると共に自らの可能性を探ることをねらいとしています。9月15日(木)は、県トップアスリート派遣事業を活用して福井ネクサスエレファントの選手によるボールゲーム指導を殿下小と合同で行いました。本校の体力テストの結果からも瞬発力や持久力についてはもの投げの力は個人差が大きく、その克服のためのボールの握り方、遠くへ投げる技術をわかりやすく記録測定を交えて教えていただきました。

また、9月16日(金)には県伝統工芸体験事業を活用して越前焼の原料である越前荒土を用いての陶芸体験も行いました。講師は元越廼中学校長の山下徹治先生をお招きして、粘土板の底から輪積みにより器壁を立ち上げ、さらに子ども達がイメージした陶芸オブジェに近づけるようご指導いただきました。

さらに、敬老の日になみ地区敬老会での発表もコロナ禍により実施できなかったことからこの渚苑に1・2年生の楽しかった思い出を手描きしたカレンダーを贈呈しに行きました。さまざまな制限がある中で子ども達の思いを大切に地域とのつながりを継続しながら学びを深め、繋げるための教育活動に取り組んでいます。



中・高学年 ネクサスエレファント選手と球技



高学年 越前荒土を用いての陶芸体験



低学年 この渚苑へ敬老の日贈り物

☆ 小規模校・高学年オンライン合同授業 道徳「義務って何？ 権利って何？」

9月13日(火)に殿下・長橋・国見小と合同で道徳「義務って何？ 権利って何？」をテーマにした合同授業を行いました。今年度2度目のオンラインでの授業ということもあり、「自分だったらどう行動するのか？」という課題にタブレットを活用して回答し、画面上に写し出された集計結果を元にそれぞれが自分の考えや自分の経験から導いた理由を発表していきました。画面越しでの意見のやり取りのため、どうしても一方通行になりがちでしたが、じっくりと考えをまとめる時間を取ることで自分の考えが他校の意見を元に見直したり、深めたりすることができました。今後も機会を捉えて新しい学びの一つとしてオンラインを活用しての合同授業を積極的に進めていきたいと考えています。なお11月には全ての学年で対面型の合同授業を予定しています。



タブレットを一人一台使用して意見表明



学校ごとに意見をホワイトボードに集約



画面を通してまとめた意見を発表